

保存問題委員会 対象建築物リストに含まれる案件のうち、今年度大きな動きがあった案件について下記のとおり報告致します。

1. **原宿駅木造駅舎** (2018.10.02 保存要望書提出)

原宿駅は2020東京オリンピック開催に向け混雑の緩和や利便性・快適性向上を目的として改良工事が進められているが、2019.11.19 JR東日本の発表によると、東京都内最古の現木造駅舎(1924)は2020年オリンピック・パラリンピック終了後にいったん解体・取り壊し、周辺開発とともに現地へ復元する、とのこと。

(新しい駅舎とホームは、2020.03.21 から運用開始)

「復元」の具体的内容については詳細不明であるが、今後委員会として情報収集に努める。

2. **旧豊多摩監獄正門** (2015.12.22 保存要望書提出)

建築家・後藤慶二の唯一現存する作品である正門は、中野区が計画している区立小学校の敷地内に存在するため、中野区は現地保存・移築・一部保存・記録保存の方策を検討し、2019.01.31 現地保存(外部見学可)することに決定した。

今後区立小学校との関係上、調整が必要と思われる。

3. **横浜市旧庁舎**

旧横浜市庁舎は建築家・村野藤吾の設計により1959年竣工した。

横浜市は新庁舎建設に伴い、旧庁舎街区活用事業としてプロポーザルオープンコンペを実施。

コンペ応募要項に旧庁舎保存利活用条件は設けられていないため、動向を注視していたところであるが2019.09.04 横浜市はコンペ結果・事業予定者を「三井不動産」を代表者とするグループに決定と発表した。

それによると決定案の内容には、旧庁舎(行政棟)をホテルとして利活用される内容が含まれているとのこと。

今後大きな変更なく進められることを願うばかりである。

4. **武井武雄生家(童画家・長野県岡谷市)** (2014.07.11 保存要望書提出)

世界的な童画家である武井武雄の生家は、創作活動の原点となった場であり、元禄時代に建設された長野県最古級の民家でもある。現存する地元高島藩の武家住宅としても貴重なものであった。

生家を保有する岡谷市は生家を取り壊して、跡地を隣接する老朽化した保育園と一体的に計画し武井武雄を顕彰する保育園として整備する方針を発表した。

保存問題委員会では保存要望書提出、解体する場合はオープンプロポーザルコンペの実施を推奨する等、働きかけを行った。しかし2019.11.14 解体・取り壊しが完了し、一般入札により新施設の着工に着手した。

なお生家の記録保存は、(公社)長野県建築士会で実施済みである。























